

奄美大島・徳之島部会からの報告 (鹿児島県)



奄美大島部会

開催日：令和7年11月5日（水）

場所：大和村

参加者：国、県、市町村の関係部局

観光協会等の民間団体、自然保護団体等

計63名

議事概要

1. 地域別行動計画の進捗状況について
2. 地域別行動計画の改定について
3. 奄美群島持続的観光マスターplanの改訂について
4. 報告・共有事項について



令和7年度奄美大島部会の様子

● ロードキル対策部会の設置とビジョン等の策定（環境省・鹿児島県）

○新たに「ロードキル対策部会」を設置し、ビジョンと全体目標、その実現に向けて必要な下位目標と対策を設定。



令和7年度ロードキル対策部会の様子

○ビジョン

知って、知らせて、みんなで減らすロードキル

アマミノクロウサギの生態及びロードキル発生の現状、防止のための有効対策について、島民及び来訪者が明確に認識できるように、情報発信を促進し周知を行う。

○全体目標

アマミノクロウサギのロードキル件数を段階的・エリア的に減少させる

当面の目標としては、過去最多件数が確認された2023年(147件)に対して、それを半減させることを目指し、実現したそれ以降においても、段階的に減少させることを目標とする。

○下位目標

| | | |
|-------|-------------------------|---|
| 下位目標① | 情報を活用したロードキル対策(現場対策)の充実 | 1. アマミノクロウサギへの対策 2. ドライバーへの対策 |
| 下位目標② | 来訪者や島民への普及啓発の強化 | 3. 来島者や移住者/島民の意識を変えるような普及啓発の展開 4. 環境教育や学習機会の充実 |
| 下位目標③ | 継続的な対策実施のための連携体制の確保 | 5. 関係機関等の連携・協力による情報収集と活用 6. 対策の効果検証 |

● アマミノクロウサギミュージアムQuruGuruにおける取組 (大和村)

アマミノクロウサギの治療や野生復帰, 生態研究, 環境教育に取り組む施設として令和7年4月20日にオープン。9月末までの入館者数は24,892人。各種普及啓発やイベントの実施のほか, アマミノクロウサギの生態に関する調査研究を実施。

● 野生生物の持ち出しや違法トラップ等への対応 (環境省・奄美市等)

野生生物の持ち出し件数はR6年度84件, 国立公園内で無許可で設置されたトラップはR6年度7件。外国籍3人による特別天然記念物オカヤドカリの大量違法捕獲事案も発生。

パトロールの実施や警察等と連携した勉強会の実施, 来島者への普及啓発の取組を実施するとともに, 関係機関による共同文書を発出(別紙)。

● その他

金作原利用ルールの変更と関連の取組(鹿児島県・奄美市), ソテツシロカイガラムシ防除取り組み状況(龍郷町), 屋久島や沖縄との中高生の交流事業(鹿児島県, 奄美5市町村)などについて報告があった。



警察署との合同パトロール(夏)



2つの世界自然遺産「奄美・屋久島」
自然体験型交流学習事業

徳之島部会

開催日：令和7年11月13日（木）

場 所：オンライン会議

※徳之島町で対面形式による実施を予定していたが、
荒天のため急遽オンライン会議の形式に変更したもの

参加者：国、県、市町村の関係部局

観光協会等の民間団体、自然保護団体等
計54名



議事概要

1. 地域別行動計画の進捗状況について
2. 地域別行動計画の改定について
3. 奄美群島持続的観光マスタートップランの改訂について
4. 報告・共有事項について

令和6年度徳之島部会の様子

● 特定外来生物シロアゴガエルの防除 (環境省・鹿児島県・徳之島3町等)

対策の必要な水場は、R5年度35地点→R6年度66地点→R7年度74地点と増加（R7.12月時点）。一方、地点増加については鈍化傾向も見られるほか、シロアゴガエルが確認されなくなった水場もある。

生体捕獲数・泡巣駆除数は下記表のとおり。R7年度の捕獲数は、その約半数が1地点に集中。対策水場ごとにみると、多くの地点においては捕獲数の減少傾向が見られている。泡巣の駆除数は1227個となり減少傾向。

●シロアゴガエル生体捕獲数の推移（令和7年12月時点）

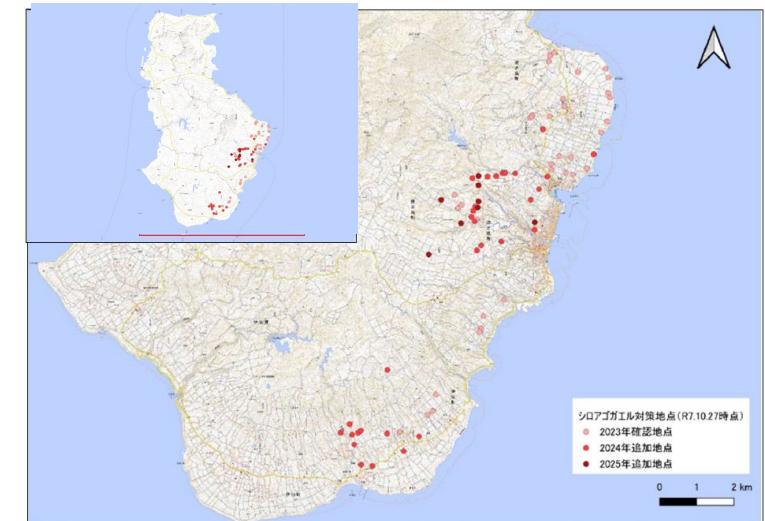
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|--------|-----|------|-----|-----|-----|------|------|-----|-----|-------------|
| 2023年度 | | 47 | 716 | 658 | 263 | 1770 | 1197 | 355 | 4 | 5010 |
| 2024年度 | 436 | 645 | 224 | 167 | 102 | 383 | 447 | 200 | 23 | 2627 |
| 2025年度 | 60 | 1835 | 616 | 113 | 100 | 593 | 597 | 68 | 14 | 3996 |

●シロアゴガエル泡巣駆除数の推移（令和7年12月時点）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|--------|-----|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------------|
| 2023年度 | | 258 | 1428 | 358 | 181 | 586 | 400 | 20 | 0 | 3231 |
| 2024年度 | 926 | 1006 | 357 | 89 | 32 | 71 | 129 | 108 | 0 | 2718 |
| 2025年度 | 3 | 626 | 307 | 100 | 22 | 22 | 136 | 11 | 0 | 1227 |



シロアゴガエル



徳之島におけるシロアゴガエルの対策水場
(令和7年12月時点)

出典：環境省

● 徳之島世界遺産センターにおける取組（徳之島世界遺産センター）

令和6年12月のオープン後、39,125名が来館（R7.9末現在）。利用者の要望に応じた環境教育プログラムやパネル展示、各種イベントの開催に取り組んでいる。

● ロードキル対策部会の設置とビジョン等の策定（環境省・鹿児島県）

「アマミノクロウサギと共に暮らす島」というビジョンの元、奄美大島部会と同様に新たに「ロードキル対策部会」を設置し、ビジョンと全体目標、その実現に向けて必要な下位目標と対策を設定。

● その他

屋久島との中学生の交流事業（鹿児島県）、10月に初めて侵入が確認されたソテツシロカイガラムシへの対応等。



徳之島世界遺産センター
ナイトミュージアム

1 地域別行動計画（奄美大島・徳之島）の改定

包括的管理計画の見直しに伴い、奄美大島・徳之島の地域別行動計画についても、取組状況や課題等を踏まえ、事業項目や検討・評価主体について見直しを行う。今後、改定案の検討・意見集約を図り、改定作業を進める。

2 奄美群島持続的観光マスタートップランの改訂（鹿児島県）

奄美群島の「持続的な観光利用」を進めるため、国・県・市町村・民間団体等の関係者共通の指針として策定された観光の取組方針。

策定から約10年が経過し、国立公園指定や遺産登録、利用ルール導入、施設整備など各種取組の進捗や課題を踏まえ、昨年から見直し作業を実施。現状や課題等について意見交換を行った。引き続き、プラン全体について改訂作業を進める。

議題に対する地域関係者からの主な意見や質問

● 奄美大島部会

- ・ 野生生物の持ち出し等への対応について、アマミシリケンイモリが販売等を目的に捕獲されている事例もあり、島から持ち出さないようお願いするだけでなく、法的根拠を持たせることを検討すべき。
- ・ 外来種対策全般について、強化を求める意見。特に近年奄美大島の一部地区で確認されたナガエツルノゲイトウについては、生息域が拡大しないように取組を強化すべき。
- ・ 外来種対策は予防が大事で、入ってから対策するのではなく、まずは入れないようにする取組が一番大事。例えば、草刈り機に外来種の種が付着して持ち込まれたのではないかと思われる事例もある。

● 徳之島部会 ※会議終了後に行った意見照会の内容を含む。

- ・ 部会で扱う情報量が多く、報告会のような形になっていると感じる。部会での取扱範囲が非常に広くなっていることが要因と考える。素早い情報共有や分野間での連携を図るため、より良い連携・共有のあり方の検討を続けてほしい。会議体の統合や解体も考えるべき。
- ・ 官民の連携が不充分。それぞれの取組や進捗状況等を会議で初めて知ることもある。（民間団体と）普段から情報共有し、一緒に対策を検討する機会を設けてほしい。
- ・ 徳之島のネコ対策の状況、現状、取組はどうなっているか。